

週間感染症情報

2022年28-31週 2022年7月11日より2022年8月7日まで

28週 29週 30週 31週

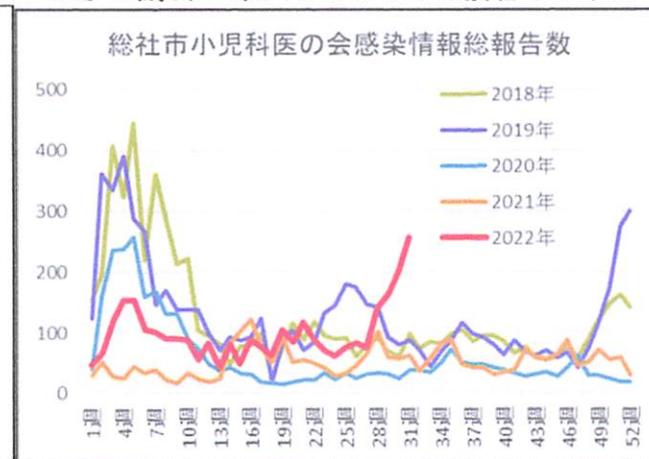
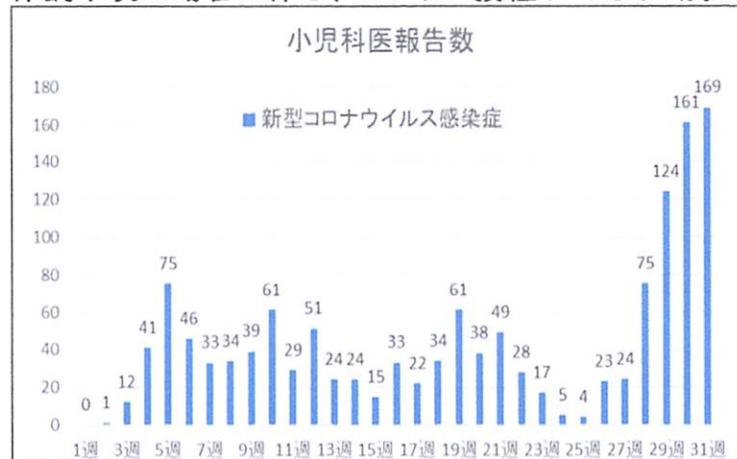
麻疹				
風疹				
水痘(みずぼうそう)				
ムンプス(おたふくかぜ)				
百日咳				
溶連菌感染症				
手足口病	1	1		5
ヘルパンギーナ	2	1		1
伝染性紅斑				
感染性胃腸炎	52	31	22	31
ロタウイルス(再掲)				
便アデノウイルス(再掲)	3			
突発性発疹	2	2	1	2
伝染性膿痂疹(とびひ)	3	4	2	8
ヘルペス性口内炎			1	
アデノウイルス感染症	2	0	3	5
RSウイルス感染症		1	1	4
マイコプラズマ感染症				0
ヒトメタニューモウイルス			4	16
新型コロナウイルス感染症	75	124	161	169
インフルエンザ A				
インフルエンザ B				

30-31週の2週間の報告です。左下のグラフの様に新型コロナウイルス感染症の報告数(内科の診断患者を含む)は26週より急激に増加しています。右下のグラフは総報告数ですが、31週は257例とインフルエンザ流行時の報告数に匹敵しています。夏休みに入り、小児のコロナ陽性者報告数は山を越えたようです。しかし、感染源不明の10代から40代の若い方の感染が増えています。未接種の方も多く、高熱でつらそうです。

小学生以上の発熱は、まずコロナを考えますが、乳幼児の間では、ヒトメタニューモウイルス、RSウイルス、アデノウイルスなど数種類の感染症がみられ、鑑別診断に苦労しています。昨年大流行したRSウイルスは、まだそれほど多くありません。30週より、ヒトメタニューモウイルスの報告が増えています。市内の複数の保育園で流行しています。発熱、鼻汁、咳といわゆるかぜ症状です。昨年は報告がなかったため、今後の流行が懸念されます。

手足口病、ヘルパンギーナなど、いわゆる夏かぜの報告は少ないです。コロナの流行で感染症の流行が大きく変わりました。行動制限のない3年ぶりの夏休みです。人流も増えて、しばらくコロナの流行は続きます。

密を避ける(換気が大切)・室内でのマスクの着用・手洗い等今まで通りの感染対策を続けるとともに、体調不良の場合は休む、ワクチン接種ができる5歳以上の方は機会が来たらできるだけ接種して下さい。



(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyakenaika.com>)